

平成25年度 第3回千葉県湾岸地域渋滞ボトルネック検討WG 議事概要

1. 日時：平成26年2月26日（水）10:00～11:00

2. 場所：千葉県庁 中庁舎 4F 県土整備部会議室

3. 出席者

西村 政洋 （関東地方整備局 千葉国道事務所長）[座長]
深沢 哲也（代）（関東地方整備局 首都国道事務所 副所長）
伏見 利行（代）（関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 課長補佐）
久保 尚也 （関東地方整備局 道路部 計画調整課長）
鵜澤 政幸（代）（千葉県警察本部 交通部 理事官兼交通管制センター長）
佐藤 政弘（代）（千葉県 県土整備部 道路計画課 副技監）
山本 喜章 （千葉市 建設局 道路部長）
加藤 健治 （東日本高速道路(株)関東支社 総合企画部 総合企画課長）
宮添 政志（代）（東日本高速道路(株)関東支社 千葉管理事務所 調査役）
加納 正志 （東日本高速道路(株)関東支社 市原管理事務所長）
河島 好広 （東日本高速道路(株)関東支社 千葉工事事務所長）
黒岩 勇輔（代）（首都高速道路(株)計画・環境部 計画調整課 課長代理）
森 悌司 （首都高速道路(株)計画・環境部 渋滞対策課長）

4. 議事

(1) 挨拶

・ 関東地方整備局 千葉国道事務所長

(2) 審議

・ 前回WGにおける主な指摘事項とその対応
・ 京葉道路の現況等
・ 京葉道路の渋滞対策（案）

<委員からの主な意見等>

■京葉道路の渋滞対策（案）について

・ 総事業費1,000億円の中には貝塚トンネルの対策費も含まれているのか。
→含まれている。
・ 料金を上げることによる交通量の変化予測、一般道への影響等を教えて欲しい。千葉市内の一般道の渋滞が悪化することを心配している。
→交通量の変化予測は精査していないが、一般論として、首都圏では価格弾力性が低いいため、料金の値上げによる交通量の変化は比較的少ない。
・ 変化は少ないといっても、周辺道路への影響は、みていく必要がある。
・ 利用者負担や増収額について詳細に試算はしているのか。
→精緻な試算はしていないが、1,000億円程度の事業費であれば、現行の料金徴収期間（平成62年まで）を考慮すると料金の2～3割増が必要と考えている。
・ 対策スケジュールは公表するのか。
→用地交渉等も必要であるため現時点で対策スケジュールは示せないが、IC

- 加減速車線の延伸、付加車線の設置を先行するなど、一定の効果を期待できる暫定的な対策は、スピード感を持って取り組みたい。
- ・対策実施に係る調査の熟度は。
- まず、花輪～幕張間（上り線）の対策を実施するべく、設計を始めたところ。穴川～貝塚間は、現在上り線付加車線の整備を進めており、下り線の対策も急ぎたい。
- 貝塚トンネルは、史跡や技術的な課題等があることから、検討には時間を要する。
- ・対策時期未定のまま利用者負担が先行すると理解が得られないと思われるので、ぜひ対策スケジュールを示して欲しい。
また、そのスケジュールをいつ頃公表できるのか示して欲しい。
 - ・料金改定については、実施中のパブリックコメントにおいて「渋滞対策をさらに進めるための料金を検討中」として、ご意見をうかがっているところ。
 - ・渋滞対策（案）は首都圏渋滞ボトルネック対策協議会に諮るのか。開催時期はいつで、どのように対策を決めるのか。
- 首都圏渋滞ボトルネック対策協議会の開催時期は決まっていないが、協議会に諮らないと対策を進められないとは考えていない。
- ・貝塚トンネル付近の国道16号と国道51号はフルアクセス化を検討しており、対策実施の際は調整が必要。
 - ・東京オリンピックを控え、京葉道路をはじめとする、成田空港と東京を結ぶ湾岸部の交通需要が高まり、円滑な交通の確保が必要となることから、早急にハード対策を実施する必要がある。
 - ・今後は船橋地区・千葉地区・市原地区等での対策（案）についても検討を進め、WGの中で議論していきたい。

以上